

# 平成 27 年度事業報告

平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日

公益社団法人 雨水貯留浸透技術協会

平成 27 年度事業の概要を下記のとおり報告する。

## 1. 会員の状況

平成 28 年 3 月 31 日現在

会員の種類	当 初	入退会数	現 在
正 会 員	22	0	22
賛助会員	45	1	46
計	67	1	68

入退会内訳

賛助会員

【入会】(1社) (株)ガイナ

## 2. 社員総会、理事会等の開催

### (1) 社員総会

#### ・第 4 回定時社員総会

開催日：平成 27 年 6 月 5 日 場所：新木場タワー15F A 会議室

正会員総数 22 名

出席正会員 18 名（うち委任状によるもの 3 名）

議事（決議事項）

第 1 号議案 平成 26 年度事業報告承認の件

第 2 号議案 平成 26 年度計算書類及び財産目録承認の件

第 3 号議案 平成 27 年度役員報酬承認の件

第 4 号議案 役員選任の件（監事の補充選任）

（報告事項－第 8 回理事会決議事項）

① 平成 27 年度事業計画書報告の件

② 平成 27 年度収支予算書報告の件

決議事項の第 1 号議案から第 4 号議案については、審議の結果事務局原案のとおり承認可決された。

### (2) 理事会

#### ・第 9 回理事会（書面決議）

開催日：平成 27 年 5 月 22 日

議案（決議事項）

第 1 号議案 平成 26 年度事業報告承認の件

第 2 号議案 平成 26 年度計算書類及び財産目録承認の件

第 4 回定時社員総会に提出する上記 2 議案について審議するため、定款第 35 条第 2 項の規定により、書面決議による理事会を開催。同議案は理事全員の承認を得られた。

・第 10 回理事会

開催日：平成 27 年 10 月 26 日 場所：雨水協会会議室

理事総数 10 名 出席理事数 9 名 出席監事 2 名

議案（決議事項）

(1) 新入会員の選考について（株ガイナ）

(2) 事務局組織の一部改訂について

（報告事項等）

(1) 役職理事の職務執行状況報告

(2) 第 31 回技術講習会の開催について

(3) マイナンバー制度について

決議事項の 2 件については、審議の結果、事務局原案のとおり承認可決された。

・第 11 回理事会

開催日：平成 28 年 3 月 14 日 場所：雨水協会会議室

理事総数 10 名 出席理事数 8 名 出席監事 2 名

議案（決議事項）

(1) 平成 28 年度事業計画書及び収支予算書等承認の件

(2) 平成 28 年度役員報酬承認の件

(3) 定時社員総会の日時及び場所並びに目的事項等承認の件

（報告事項等）

(1) 役職理事の職務執行状況について

(2) 平成 27 年度決算見込みについて

(3) 役員改選について

(4) 内閣府立入検査指摘事項について

(5) 事務局組織について

決議事項の 4 件については、審議の結果、事務局原案のとおり承認可決された。

(3) 常設委員会 ( ) は開催回数

① 企画委員会 (2 回)

委員長：日本工営(株) 中嶋 規行

② 編集委員会 (4 回)

委員長：芝浦工業大学 教授 守田 優

③ 編集小委員会 (4 回)

委員長：日本工営(株) 内山 雄介

④ 評価認定委員会 (3 回)

委員長：東京大学名誉教授 虫明 功臣

## 2. 調査、研究

- (1) (都市河川流域の) 水循環系健全化方策の検討
  - ① 砧公園をモデルとした公園の持つ治水上や文化的・レクリエーション的な恩恵を含め、その他生態系サービスに関する調査研究 (国連大学・国士舘大学)
  - ② 平成 27 年度新河岸川水循環再生推進業務 (日本工営) への協力支援
  - ③ 流出解析に関する技術指導 (見附市関連業務)
  
- (2) 雨水貯留浸透施設の効果評価の検討
  - ① 小諸市大久保地区太陽光発電施設設置に伴う流出抑制施設の計画設計業務
  - ② 現地浸透能力調査 4 件  
ポレスター昭島、熊谷市役所駐車場、南浦和、調布市染地
  - ③ エコブロック Biz の現地浸透試験 (技術評価認定に伴う試験)
  - ④ 谷戸川上流域の浸透施設の流出抑制効果のモニタリング (国連大学・国士舘大学)
  - ⑤ 浸水被害軽減のための各種アプローチ (基礎) 研究 (春日部市でのケーススタディ)
  - ⑥ 世田谷区高橋邸における雨水活用効果に関するモニタリング
  
- (3) 全国における貯留浸透施設普及状況の実態把握と普及方策の検討
  - ・平成 27 年度は該当調査なし
  
- (4) 地下水の適切な管理及び利用に関する検討
  - ① 既設消雪井戸を活用した地下水涵養 (見附市モデル事業への協力)
    - ・地下水質調査 (濁度・水温)
  
- (5) 都市における雨水管理に関する検討
  - ① GBM (グリーン・ビジネス・マネジメント) 共同研究会 (都市緑化機構) への参画
  - ② 平成 27 年度雨水有効利用に関する海外先進事例の情報収集 (国交省水資源部)
  
- (6) 雨水貯留浸透技術のアジアモンスーン地域への展開検討
  - ① 後述する国際会議や国際交流を通じて、情報収集やネットワークの構築を行った。
  - ② JICA 中小企業海外展開支援事業「ジャカルタ・チリウン川流域でのプラスチック地下貯留槽の普及」(秩父ケミカル) に係わり、アドバイザーの立場で、貯留槽の計画設計、現場施工の協力支援をするとともに、施設設置後の流出抑制効果のモニタリング、現地の設計基準、許認可制度などの調査を行った。
  - ③ JICA 中小企業連携促進基礎調査「インド国における水の需給ギャップを

- 埋めるプラスチック製雨水地下貯留システムの製造販売事業調査」(トータツ、マイクライメイトジャパン)の協力支援
- ④ プラスチック製地下貯留槽共同研究会(海外向け)での検討

(7) 技術指針等の整備

- ① 雨水利用ハンドブックの改訂準備
- ② プラスチック製地下貯留浸透施設技術指針(案)の次期改訂に向けた共同研究会の運営実施
- ③ 雨水活用技術基準(日本建築学会)の策定支援

#### 4. 雨水貯留浸透技術の普及啓発活動

(1) 図書等の発行・配布

- ① 季刊誌「水循環 貯留と浸透」 第97号～100号  
各号特集報文
- 97号「流域の雨水管理に係る海外動向」
- 98号「水循環基本法に期待する(座談会)」
- 99号「気候変動適応策のあり方」
- 100号「都市の水循環をどうするか(座談会)」  
～水循環基本計画を踏まえて～
- ② 雨水浸透施設技術指針等発行図書の販売

(2) 啓発・普及のための雨水貯留浸透施設の展示等

- ① 第19回東久留米市環境フェスティバル(2015.6.13～6.14)  
のぞいてみようよ ～自然・まち・人の環～

上記フェスティバルが東久留米市庁舎にて開催され、当協会は例年通り協賛団体としてイベント等に協力し、会員企業と共同で、「雨水浸透ます」及び雨水貯留浸透技術に関するパネル、パンフレット等の展示を行った。

- ② 第7回国際水ソリューション総合展(2016.1.27～1.29)

東京ビッグサイトで開催された同総合展【Inter Aqua2016】において、プラスチックメーカー会員5社とARSITパビリオンを共同出展した。また、翌29日には「ARSIT セミナー・雨水活用シンポジウム～畜雨による日本版グリーンインストラクチャーのすすめ～」を開催した。シンポジウムには150人を超える参加者があった。

(3) 雨水貯留浸透技術のデータベースの作成及び情報提供

- ・雨水貯留浸透施設に関する自治体助成制度及び技術規準等の収集・整理

(4) 雨水貯留浸透技術に関するPR及びパンフレットの作成・配布

- ・「雨水貯留浸透施設の設置に対する支援措置のご紹介」(27年度版)
- ・「21世紀は、水について考える時代です」(A3三つ折りパンフ)
- ・「流域貯留浸透施設のご紹介」(小冊子)

・協会パンフレット改訂（英語版含）

(5) 雨水貯留浸透技術に関する社外講演

市民団体や関係関連機関等の依頼により、雨水貯留浸透や水循環に関する講演活動を行った。

① 雨水貯留浸透製品工業会総会講演（2015.6.8）

講師：屋井技術部長

テーマ：「海外における雨水管理の動向」

聴講者：同工業会メンバー約 40 名

② 建築総合設備協会講演（2015.7.8）

講師：屋井技術部長

テーマ：「建築物における雨水活用の意義と事例」

聴講者：27 社、55 名

③ 会員企業（前澤工業）社員研修講演（2015.7.9）

講師：屋井技術部長

テーマ：「プラスチック製貯留構造体の規格化に向けて」

聴講者：社員約 20 名

④ 第 55 回塩ビ建材連絡会議講演（2015.11.27）

講師：屋井技術部長

テーマ：「雨水貯留浸透技術の解説と今後の展開」

聴講者：15 名

⑤ 第 343 回技術サロン講演（2015.12.10）

講師：屋井技術部

テーマ：「雨水貯留浸透技術の現状と今後の展開」

聴講者：25 名

⑥ 「建築と雨水活用の可能性」を考える連続セミナー（2016.2.6）

講師：屋井技術部長

テーマ：「雨水活用の知恵と技術」

聴講者：松山市在住の建築士 約 20 名

(6) 技術講習会の開催

第 31 回 雨水貯留浸透技術講習会

開催日：平成 27 年 11 月 16 日

会場：新木場タワー1F 大ホール

受講者数：自治体職員、会員企業等 91 名

『講習会プログラム』

題 目	講 師
河川行政の最近の話題	国土交通省 水管理・国土保全局 治水課 堤防構造分析官 山下 武宣
【基調講演】 国土の変貌と水害に思う ～社会基盤とその技術者への理解～	東京大学名誉教授 高橋 裕

特集【水循環基本法に期待する】	
水循環基本法と水循環基本計画について	内閣官房水循環政策本部事務局 画官 三輪 準二
樋井川流域治水市民会議のチャレンジ	九州産業大学工学部都市デザイン工学科 教授 山下 三平
鶴見川流域水マスタープランの取組	国土交通省関東地方整備局 京浜河川事務所 早迫 善治
新河岸川流域水循環マスタープランの取組	国土交通省関東地方整備局 荒川下流河川事務所 藤枝 達也
水の環復活なごや戦略	名古屋市環境局地域環境対策部 地域環境対策課 松田 崇裕
印旛沼流域水循環健全化への取組	千葉県県土整備部河川環境 企画班副主査 中村 大介

『見学会』 平成 27 年 11 月 17 日 参加者：34 名

・二子玉川公園地下貯留、二子玉川ライズ・ルーフガーデン、  
等々力溪谷（湧水）

#### (7) 国際会議・国際交流等

水循環及び雨水貯留浸透に関わる国際会議に出席し講演・発表を行うとともに、海外関係機関への協力・情報交換を行った。

##### ① 第 7 回世界水フォーラム（韓国大邱市 2015.4.12～17）

首記世界水フォーラムが「私たちの未来への水、安全で豊かな水をすべての人々に」と題して、韓国で開催された。当協会からは、忌部常務理事と屋井部長が LID（低影響開発）、GI（グリーン・インフラ）をテーマとしたセッションに参加し、プレゼンテーションを行った。

##### ② 国立台湾海洋大学 廖教授来訪（2015.8.17～8.20）

廖教授と江助手が来日し、協会の案内で日本工営の水循環解析ソフト（NK-GIAS, NK-GHM）の研修プログラムを受講した。

##### ③ JICA インドネシア研修受入（2015.9.28～2015.10.2）

インドネシア共和国プラスチック製雨水貯留浸透施設の普及・実証事業（JICA：秩父ケミカル(株)受注）の一環で、インドネシア公共事業省、ボゴール市の担当者 5 名の本邦研修が約 1 週間の日程で実施された。協会は、アドバイザーの立場で、白子川調整池、昭島つつじが丘団地、鶴見川多目的遊水地、恩廻公園調節池などの現地見学に同行した。

##### ④ 韓国環境公団来訪（2015.10.19～10.20）

雨水流出に伴うノンポイント汚濁負荷の低減方策に関する日本での取り組み状況のヒアリング及び現地視察のため韓国環境公団の水生態施設所の幹部職員の計 3 名が来訪。協会では日本の取組状況を説明し、翌日、北本の歩車道

における雨水循環施設等を案内した。

⑤ 台湾視察団来訪（2015.12.16～12.17）

台北市工務局から4名が来日、協会の案内で、昭島つつじが丘ハイツ（12/16）恩廻公園調節池（12/17）を視察した。

⑥ 韓国視察団来訪（2016.3.4）

当協会と技術協定を結んでいる釜山大学申教授の依頼により、釜山市海雲台区職員及びLIDプロジェクト関連技術者（総勢8名）を対象に、日本における治水施設の見学会を実施した。

（見学施設：麻生環境センター調整池、恩廻公園地下調節池、二子玉川ライズ・ルーフガーデン、二子玉川公園地下貯留施設、目黒天空公園）

⑦ キューバ研修生来訪（2016.3.9）

JICAのキューバ地下帯水層への塩水侵入対策・地下水管理能力強化プロジェクトの本邦研修プログラムの一環で、キューバ水利公社からの4名が協会を訪問、「日本における雨水貯留浸透技術の歩みと展望」と題して、協会より説明を受けた。講義の後、昭島つつじが丘ハイツの雨水貯留浸透施設の見学を行った。

⑧ 第13回慶南水フォーラム（韓国晋州市 2016.3.22）

首記水フォーラムの分科会（テーマ：LID技術の開発傾向とその活性化計画）にて、忌部常務理事が「近年施行に至った雨水利用推進法、水循環基本法に関連した雨水貯留浸透技術の将来展望」と題して、プレゼンテーションを行った。

⑨ 東先生（中国）来訪（2016.3.30）

上海、同济大学地下空間研究センター教授および上海市都市科学研究会副理事長、東昱先生が協会に来訪され、中国の国家プロジェクト「スポンジシティ計画」に関連して、協会と情報交換を行った。

（8）相談、問い合わせ等

行政担当者、設計会社、メーカー等からの雨水貯留浸透技術に関する問い合わせへの相談対応 年間約90件

## 5. 雨水貯留浸透技術評価認定

平成8年6月1日に雨水貯留浸透技術評価認定制度がスタートし、昨年度までに技術評価認定書36件、技術推薦書5件、製品評価書9件を交付した。今年度は下記の5件（技術評価3件、製品評価2件）の認定書を交付した。

【平成 27 年度評価認定書交付実績】

年度	No.	申請者	対象技術
27	37	日本道路株式会社 小松精練株式会社	エコブロック Biz 工法
	29-2	株式会社トーテツ	アクアパレス工法 (変更再評価)
	19-3	リプロントーク株式会社	ハイドロスタッフ工法 (変更再評価)
	10	株式会社吉原化工 泰成興業株式会社	もやいドレーン (製品評価)
	11	東邦レオ株式会社	グリーンアクアミックス (製品評価)

## 6. 雨水貯留浸透技術に関する関係機関への協力、提言等

### ① 水道公論鼎談 (2015.8.3)

日本水道新聞社が発刊する月刊誌「水道公論」の9月号に掲載される特別企画：「都市と水の未来を俯瞰する～雨水法公布を受けて」において、松田会長が、安中徳二氏（一般社団法人日本非開削技術協会会長）、竹内直文氏（㈱日建設計顧問・前一般財団法人民間都市開発推進機構常務理事）と鼎談を行った。

### ② 第8回雨水ネットワーク会議全国大会 in 愛知 (2015.8.21～23)

～ものづくり愛知の忘れ物 雨水 里山 環の心～

平成20年の第1回東京都墨田区に始まり、福岡市、松山市、大阪市、東京都、仙台市、福井市を経て、第8回目は愛知県の愛・地球博記念公園の会場で開催された。当協会は、実行委員会世話人会のメンバーとして発足当初より参画している。次回第9回は東京都（世田谷区）で開催される。

### ③ 国分寺崖線湧水見学会 (2015.9.11)

水文水資源学会 2015年総会の全体プログラムの中で、韓国および中国からの代表団対象の現地視察コースの1つとして、国分寺崖線湧水見学会が企画された。協会の案内で「殿ヶ谷戸庭園」、「真姿の池湧水群」などを見学した。

(参加者：約10名)

### ④ “雨の貯金箱” 東北支援プロジェクト第2弾 (2015.10.3)

大船渡市碁石地区復興まちづくり支援・日大チーム代表の糸長教授を通じて、大船渡市碁石地区の復興住宅（22戸）での雨水タンクの設置の支援要請があったため、日本建築学会雨水活用推進小委員会のメンバーと協力して、現地調査及び“碁石地区復興まちづくり協議会”メンバーと意見交換を行った。

(参加者：9名)



⑤ 第 23 回日本雨水資源化システム学会大会 (2015.10.31～11.2)

桜華会館（名古屋市中区三の丸）で開催された日本雨水資源化システム学会の第 23 回研究発表会（参加者約 60 名）において、屋井部長が「戸建住宅における蓄雨性能に関する一考察」と題して口頭発表を行なった。

⑥ ICHAM 講義・施設見学 (2015.11.26)

水災害リスクマネジメント国際センター（ICHARM）の海外向け修士課程の学生 13 名に忌部常務理事が「都市河川の総合的流域管理」と題して、講義を行った。その後、一行は鶴見川多目的遊水地、川和遊水地、高橋裕先生宅の雨水利用を見学した。

⑦ 都市緑化フォーラム 2015 ～みどりが創る都市の未来～ (2015.12.14)

都市緑化技術の普及・啓発を目的とした同フォーラムが、(公財)都市緑化機構の主催により開催され、屋井技術部長がグリーンビジネス・マネジメント共同研究会の部門で成果発表（海外における植物を利用した豪雨貯留浸透施設の整備状況報告）を行った。  
(参加者 156 名)

⑧ 雨水活用技術規準講習会 (2016.3.7)

日本建築学会の「雨水活用技術規準」発刊を記念して、同技術基準の講習会が建築会館ホールで開催され、屋井技術部長が講師として「雨水活用の評価と事例の調査研究」について講演した。  
(参加者 60 名)

## 7. その他

① インターンシップ (2015.7.28～8.4)

夏期休暇期間を利用したインターンシップで、福井工業大学の大学院生（前川翔太さん）が当協会に 1 週間、雨水貯留浸透技術の研修を行った。

② 内閣府立入検査 (2015.9.4)

当協会は平成 24 年 8 月 1 日に公益社団法人に移行したが、3 年に 1 回の内閣府による立入検査が 9 月 4 日に行われた。当日、内閣府より 2 名の検査官が来協し、事業内容、会計業務等について監査を行った。

\* 平成 27 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律行規則」第 34 条第 3 項に規定する付属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。